

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第四七一六號

昭和十九年六月十六日(金)
海軍大臣官房

(前紙下引換舊紙ハ燒却相成度)

○令 達

官房需機密第二一〇號
 當分ノ開地方在勤武官府並ニ海軍運輸部及同支部ニ附屬ノ船艇
 又ハ自動車ニ要スル燃料、潤滑油、糸屑及古綿布ハ別ニ規定ア
 ルモノノ外海軍需部又ハ特設海軍需部在庫ノ兵備品ヲ繰替
 供給スルコトヲ得
 之ヲ取扱ニ關シテハ昭和十八年官房經第一一七五號ニ依ルモノ
 トス
 昭和十九年六月十四日
 海軍大臣

官房需機密第五號
 當分ノ開マカツサル研究所及海南海軍特務部ニ於テ要スル治療
 品ハ補給ニ差支ナキ範圍ニ於テ左ノ各號ニ依リ繰替供給スルコ
 トヲ得
 昭和十九年六月十四日
 海軍大臣

一 繰替供給シ得ル用途
 (イ) マラリア防遏作業其ノ他豫防及消毒
 各種研究作業
 檢疫所防疫作業
 (ハ) (ロ) (X) X
 繰替供給シ得ル範圍
 海軍治療品經理規程ニ定ムル品類

海軍公報(部内限) 第四七一六號 昭和十九年六月十六日

三 繰替供給方法
 繰替供給ヲ受ケントスル各廳長ハ年度頭初ニ於テ當該年度内
 ニ繰替供給ヲ受ケントスル治療品ノ品類、數量及之ヲ必要ト
 スル理由ヲ具シタル協議書(二通)ヲ海軍省醫務局長ニ送付
 スルモノトス
 海軍省醫務局長前項ノ協議書ニ付差支ナシト認ムルモノニ限
 リ最寄海軍病院在庫品ヲ繰替供給セシムルモノトス

○通 牒
 官房需機密第三一八號ノ三
 昭和十九年六月十五日
 海軍大臣官房

各廳長殿
 郵便物ニ關スル件通牒
 昭和十九年官房需機密第三一八號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關
 スル例規中左ノ通改メラレ候
 記

附錄所在地區別符表(其ノ二)中ニ

サ	ラ	ン	ガ	ニ	島	テ	四	貳
レ	イ	テ	島	テ	五	〇		
ヲ	加	フ						
同								
ツ								
ド								
ウ								
モ								
イ								
參								
七								

(其ノ三) 中ニ

八六七

0580

ナ	ト	ラ	ン	イ	參八
ヲ加フ					
(其ノ四)中ニ					
マ	ジ	ウ	ン	セ	六五
シ	ヨ	ク	ジ	ヤ	カル
タ	セ	六	六	六	六
テ	リ	リ	リ	ダ	ン
セ	六	七	七	七	七
ヲ加フ					
附録部隊區別表(其ノ一)中「第六十二航空戰隊司令部」ウ參五〇」ヲ					
第	二	航	空	艦	隊
司	令	部	ウ	參	五〇
ニ改メ					
中部太平洋方面艦隊軍法會議					
ウ	四	四	四	四	四
ヲ加フ					
(其ノ三)中ニ					
第	二	十	一	航	空
隊	イ	壹	貳	五	
第	二	十	二	航	空
隊	イ	壹	貳	六	
ヲ加フ					
(其ノ四)中ニ					
第	一	〇	〇	防	空
隊	セ	壹	五	九	
第	一	三	一	防	空
隊	セ	壹	六	〇	
第	五	十	一	航	空
隊	セ	壹	六	壹	

第	五	十	二	航	空
隊	セ	壹	六	貳	
第	五	十	三	航	空
隊	セ	壹	六	參	

官房機密第三四九號
昭和十九年六月十五日
海軍省兵備局長
關係各局長殿
有線通話制限ニ關スル件申進

近時有線通話益々激増シ緊急重要通話ニ支障カラルニ付
海軍専用線ニ依ル境域外長距離通話ニ制限ヲ行ヒ以テ緊急重要
通話ノ回滑迅速ヲ圖ル爲左記ノ通定メラレ候條之方勵行方部下
ニ對シ徹底セシムル様可然取計相成度
記
一 高等官ノ外之方使用ヲ禁止ス但シ高等官ノ代理トシテ通話
スル場合及作戰關係通話ヲ除ク
二 防空警報發令中ハ直接作戰ニ關係ナキ一般通話ノ使用ヲ禁
止ス

○ 雜 款
○司令潜水艦變更
第二十二潜水隊司令ハ五月二十日司令潜水艦ヲ伊號第百八十五
潜水艦ニ變更セリ
○集會所設置
佐世保水交社垂水集會所ヲ五月三十一日垂水海軍航空隊内ニ設
置セリ
○本日普通公報發行セズ
(佐世保水交社)

海軍公報

(部内限) 第四七一七號

昭和十九年六月十七日(土)
海軍大臣官房

○令 達

官房軍機密第八二四號
魚雷艇六隻ヲ雜役船ニ編入シ其ノ船名、船種、所屬等ヲ左ノ通
定ム

昭和十九年六月十五日

海軍大臣 臣

(限 内 部)

船名	船種	所屬	別定數	記 事
第九十號雷艇	内火艇 (魚雷艇型)	臨時魚雷艇訓練所	臨時所屬	舊第四百六十八號魚雷艇
第九十一號雷艇	同	同	同	舊第四百六十九號魚雷艇
第九十二號雷艇	同	同	同	舊第四百九十一號魚雷艇
第九十三號雷艇	同	同	同	舊第四百九十二號魚雷艇
第九十四號雷艇	同	同	同	舊第六十五號半艇
第九十五號雷艇	同	同	同	舊第六十六號半艇

○通 牒

經物第七五號

昭和十九年六月十五日

海軍省 經理局長

關係各廳長殿

前金拂又ハ概算拂承認者名簿中改正ノ件通知

海軍公報(部内限) 第四七一七號

昭和十九年六月十七日

八六九

昭和十六年經物第一六三號別冊首題名簿中左記ノ通一部改正致候

一 削除者

記

會社名	所在地	事由
株式會社石井鐵工所	東京都麴町區有樂町一ノ一東日會館内	軍需會社
磐城セメント株式會社	東京都麴町區丸ノ内二ノ二ノ一	同
株式會社大塚製作所	東京都品川區東品川四ノ一九	同
株式會社宇野澤組鐵工所	東京都澁谷區山下町六二	同
大阪製鋼株式會社	大阪市西淀川區西島町九三ノ一	同
大阪製業セメント株式會社	大阪市北區堂島濱通二ノ一四	同
關東瓦斯株式會社	東京都麴町區丸ノ内三ノ六	同
株式會社竹内鐵工所	東京都城東區南砂町九ノ二四七〇	同
高田機工株式會社	東京都芝區田村町一ノ三	同
大日本銑砲株式會社	大阪府北河內郡大和田村大字横地六〇	同
秩父セメント株式會社	東京都麴町區丸ノ内一ノ二ノ一	同
東洋曹達工業株式會社	日本工業俱樂部内	同
山口縣都濃郡富田町四五六〇	山口縣都濃郡富田町四五六〇	同
日本燃料機株式會社	東京都芝區田村町五ノ九	同

0582

日本橋梁株式會社	大阪市東淀川區長柄濱通一ノ五	軍需會社
矢作工業株式會社	名古屋市中區東片端町二ノ三ノ一	同
大和製鋼株式會社	大阪市西成區津守町三〇九	同

二改正

福井謙二(福井鐵工所)ヲ「福井工機株式會社」ニ、「原浩(原庄組)和歌山縣海草郡加太町一三八二」ヲ「株式會社原庄組」和歌山縣海草郡加太町大字加太一三八二ニ改ム

兵備四機密第六〇〇號

昭和十九年六月十六日

海軍省兵備局長

關係各廳長殿

南方地域ニ於ケル昭和十九年徵集現役兵ノ入營

時期考慮ニ關スル件照會

首題ノ件ニ關シ別紙寫ノ通陸軍省兵務局長ヨリ南方軍總參謀長宛通牒セラレ候條可然取計相成度

(別紙)

兵備第五六號

南方地域ニ於ケル昭和十九年徵集現役兵ノ入營

時期考慮ニ關スル件通牒

昭和十九年六月三日

陸軍省兵務局長

南方軍總參謀長殿

南方地域ニ在ル海軍部隊勤務員中本年現役兵トシテ徵集セラルル者ニシテ俄ニ餘人ヲ以テ代替シ得サルモノニ付入營時期考慮方現地海軍最高指揮官ヨリ協議アリタル場合ニハ軍要員充足上支障ナキ範圍ニ於テ明二十年八、九月頃ヲ限度トシ入營時期ヲ

延期スル如ク考慮相成度

追テ近ク示達セラルル入營及派遣等ニ關スル規定ニ於テハ貴軍管下ニ於テ受檢スル者ノ入營ハ南方軍總司令官ノ定ムル所ニ依リ本年九月以降隨時入營セシムル如クセラルル豫定ニ付申添フ

〇雜款

〇第二種軍裝着用
名古屋地方ニ於テハ本年六月二十日ヨリ七月九日迄第二種軍裝ノ夏袴ニ代フルニ軍袴ヲ以テス
但シ正裝、禮裝又ハ通常禮裝ヲ爲スベキ場合ニ於テ第二種軍裝ヲ用フル場合ハ右服裝ヲ用ヒズ
(在名古屋海軍監督長)

〇服裝

岡山地方ニ於ケル第二種軍裝着用期間左ノ通
自昭和十九年六月二十日
至同 年九月二十日
(在岡山海軍首席監督官)

〇事務引繼

前任出納官吏 海軍主計兵曹長 岡田 三郎
後任出納官吏 海軍主計大尉 山野 幸吉
右六月八日事務引繼ヲ了ス
(P及Q基地部隊)

〇事務開始

伊號第四十八潜水艦機裝員事務所ヲ六月三日佐世保海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

〇本日普通公報發行セズ

海軍公報

(部内限) 第四七一八號

海軍大臣官房

昭和十九年六月十九日(月)

命令 達

官房第一六三〇號

大東亞戰爭中第二海軍技手養成所ノ教育ハ一時之ヲ中止ス
本令ハ昭和十九年六月三十日ヨリ之ヲ施行ス
昭和十九年六月十六日

海軍大臣

内令 要登載

官房機密第八三三號

當分ノ間本年官房機密第四五四號ノ規定ニ拘ラズ海上護衛總司令部所屬ノ特設護衛船團司令部ノ支拂ニ屬スル經費ハ普通經費支拂トシ支出官ヲ海軍省經理局長トス
昭和十九年六月十七日

海軍大臣

(參照) 昭和十九年四月二十二日海軍公報(部内限)

官房機密第八三三號

昭和十八年官房機密第一八〇號中左ノ通告改正ス
昭和十九年六月十八日

海軍大臣

第一號ノ二ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ

- 一ノ三 支那ニ在ル部隊及其ノ他ノ各部ニ在ル特殊使役者ニハ前號ノ規定ニ依ルノ外所屬長官ノ定ムル所ニ依リ報酬、給料又ハ基本賃錢ノ十分ノ二十以內ノ臨時手当ヲ支給スルコトヲ得

附則

海軍公報(部内限) 第四七一八號 昭和十九年六月十九日

本令ハ昭和十九年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス
(參照) 海軍機密會計法規類集一三〇ノ六八頁

〇 通牒

海人三機密第一號ノ一一九
昭和十九年六月十八日

内令 要登載
海軍省人事局長

各 廳 長 殿

海軍ノ部隊等ニ入隊後陸軍ノ學生、生徒ヲ志願スル者ノ取扱ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シ左記ノ通定メラレ候
追テ陸軍ニ於ケル本取扱ニ關シテハ別紙ノ通牒アリタルニ付了知アリ度

記

- 一 海軍ノ部隊等ニ入隊後陸軍ノ學生、生徒ヲ志願スルコトハ之ヲ認メズ
- 二 海軍ノ部隊等ニ入隊前陸軍ノ學生、生徒ヲ志願シ之ニ關スル諸手續ヲ完了シタル者ハ教育召集又ハ演習召集ニ依リ入隊シタル者ニ限り任務行動上支障無キ場合所轄長ハ其ノ志願ヲ認メ受驗セシムルコトヲ得
- 三 前號ニ該當スル者又ハ海軍ノ部隊等ニ入隊前陸軍ノ學生、生徒ノ受驗ヲ了シタル者ニシテ入隊後陸軍ノ學生、生徒ニ採用若ハ採用豫定ノ通知ヲ受ケタルモノアルトキハ所轄長ハ速ニ之ヲ在籍鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ニ報告シ海軍大臣ノ指示アリタル後所命部隊ニ出頭ヲ命ズルモノトス但シ志願

八七一

0584

ニ依リ海軍ノ部隊等ニ入隊シタル者ハ之ヲ認メズ

(別紙)

陸密第一九三三號

陸軍部隊編入中ノ者ニシテ陸海軍ノ學生、生徒ヲ

志願スルモノノ取扱ニ關スル件陸軍一般へ通牒

昭和十九年五月十三日

陸軍省 副官

首題ノ件ニ關シ左記ノ通定メラレタルニ付依命通牒ス

左記

- 一 陸軍部隊編入後海軍ノ學生、生徒ヲ志願スルコトハ之ヲ認メズ
 - 二 陸軍部隊編入前海軍ノ學生、生徒志願ニ關スル諸手續ヲ完了シタル者ハ教育召集及演習召集ニ依リ陸軍部隊ニ編入セラレタル者ニシテ之カ受験ノ爲師管外ニ出張セシムル等ノ必要無キ場合ニ限リ其ノ志願ヲ認メ受験セシムルモノトス
 - 三 前號ニ該當スル者又ハ陸軍部隊編入前海軍ノ學生、生徒ノ受験ヲ了シタルモノニシテ陸軍部隊編入後海軍ノ學生、生徒ノ採用豫定者若ハ採用決定者トナリタルモノニ對シテハ陸軍大臣ノ示達アリタル後所命部隊ニ出頭ヲ命スルモノトス但シ志願ニ依リ陸軍部隊ニ編入セラレタル者ハ之ヲ認メズ
- 前項該當者ニ對スル兵役法施行規則第三十九條ノ規定ニ依ル處置ハ編入確定後之ヲ爲スモノトス

○雜 款

○第三種軍裝着用期間

自今特ニ定ムル場合ノ外當管内ニ於ケル第二種軍裝着用期間ヲ六月三十日ヨリ九月二十日迄トス
但シ軍袴ノ着用ハ東京方面ニ準ズ
(宇都宮地方海軍人事部長)

○開隊
厚岸防備隊ハ六月十日北海道厚岸郡厚岸町ニ開隊セリ

○出張所設置
左記ノ通出張所ヲ設置シ事務ヲ開始セリ

名	稱	場	所	取扱事項
第百三海軍軍需部	フラン出張所	比島ソルソゴン州	フラン町	航空隊關係燃料糧食ノ供給
マニラ海軍運輸部	同	同	アルバイ州	
同	レガスピ州出張所	同	レガスピ州	同
同	タクロパン出張所	同	レイテ島	
同	同	同	タクロパン町	同

(第百三海軍軍需部)

○事務開始

第一三四號特設輸送艦艇裝具事務所ヲ六月十日佐賀縣西松浦郡山代町川南工業株式會社浦ノ崎造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○残務整理

三亞海軍航空隊ハ六月一日解隊殘務整理ハ左記ニ於テ之ヲ行フ
佐世保郵便局氣付イ八九内
イ八八殘務整理員

第二十七掃海隊ハ六月十日解隊殘務整理ハ厚岸防備隊内ニ於テ之ヲ行フ

○本日普通公報發行セズ

0585

海軍公報

(部内限) 第四七一九號

昭和十九年六月二十一日(水)

海軍大臣官房

○令 達

官房空機密第一四號ノ二二八

昭和十九年六月七日

海軍大臣

横須賀、吳、佐世保、舞鶴、鎮守府
大湊、鎮海、高雄、警備府 司令長官殿

兵器簿ノ件通達

兵器簿通信長主管(航空) 航空無線兵器ノ部中補用ノ定數全部ヲ削除ス

官房軍機密第八三三號

陸海軍電波技術委員會規約中左ノ通改正ス

昭和十九年六月十六日

海軍大臣

別表ヲ別表ノ如ク改ム

(別表一葉添)

(内令提要卷一、三〇ノ六四ノ五頁参照)

官房軍機密第八三六號

燃料生産對策委員會規程左ノ通定ム

内令提
要登載

海軍公報(部内限) 第四七一九號

昭和十九年六月二十一日

八七三

昭和十九年六月二十日

海軍大臣

燃料生産對策委員會規程

第一條 現時局ニ對處シ燃料潤滑油、添加劑等ノ生産ヲ強力ニ推進スルニ必要ナル技術的事項ニ付急速ニ對策ヲ樹立シ實行ヲ促進スル爲燃料生産對策委員會ヲ置ク

第二條 燃料生産對策委員會ハ海軍省軍需局長ヲ委員長トシ其ノ下ニ委員、幹事及副委員ヲ置ク其ノ組織別表ノ如シ
燃料生産對策委員會ニ必要ニ應ジ分科會ヲ置クコトヲ得

第三條 委員長ハ會務ヲ總理ス

第四條 委員、幹事及副委員ハ議案ヲ審議ス

第五條 前條ノ外幹事ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條 委員長審議上必要アルトキハ委員以外ノ者ヲシテ議事ニ關與セシムルコトヲ得

第七條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外燃料生産對策委員會ニ關シ必要ナル事項ハ委員長ノ定ムル所ニ依ル

(別表添)

官房軍第八〇三號

大東亞戰爭中英國及和蘭國ヨリ捕獲セル汽船三隻ヲ雜役船ニ編入シ其ノ船種、船名、所屬等ヲ左ノ通定ム

(限 内 部)

昭和十九年六月二十日

海軍大臣

船種	船名	所屬	別定數	記	事
測量船 (千三百二十噸)	平洋	水路部	臨時	大東亞戰爭捕獲船	
測量船 (千六百六十噸)	潮洋	南方海軍航路部 軍供用	臨時	英國測量船「ヘラルド」	
測量兼海洋觀測船 (九百十六噸)	寶洋	同	臨時	和蘭國武裝測量船「タイドマン」	
		同	臨時	和蘭國燈臺監視兼補給船「ボートラックス」	

官房軍第八〇六號

昭和十八年官房軍第一〇九八號ノ二（大東亞戰爭中軍艦進水規則第八條及第九條ノ規定ニ拘ラス命名式場ニ參列スベキ諸員ノ件）中左ノ通改正ス

昭和十九年六月二十日

海軍大臣

第三號中「當該鎮守府司令長官又ハ警備府司令長官」、「當該海軍工廠長」及「當該海軍工廠總務部長及同造船部長」ノ下ニ「參列不能ノ場合ニ在リテハ代理者」ヲ加フ

（諸例則卷三、五六四頁參照）

○通牒

軍務一第一〇一號

昭和十九年六月二十日

各廳長殿

海軍省軍務局長

服裝ノ整齊ニ關スル件申進

最近部内要員ノ急激ナル膨脹並ニ纖維資源ノ逼迫ニ伴ヒ軍裝品ノ入手不如意ニシテ各部ニ於ケル服裝ノ整齊ハ極メテ困難ナル實情ニアルハ之ヲ諒トスルモ之ガ爲服裝ノ亂豚ヲ放任スルガ如キコトアラバ軍隊ニ於ケル服裝ノ重大意義ヲ滅却スル虞アリ殊ニ近時往々ニシテ各自ノ不注意無關心ヨリスル服裝違反若ハ不體裁ノモノヲ散見セラル、ハ戰時下軍隊ノ威嚴保持及軍人ノ體面維持ヲ強調セララル折柄甚ダ遺憾トスル所ナルヲ以テ各部ニ於テハ一層服裝ニ關スル法規ノ嚴守勵行ニ努メ以テ之ガ整齊ニ遺憾ナキヲ期スル様可然指導相成度

海人三第一號ノ四六

昭和十九年六月二十日

海軍省人事局長

各所轄長殿

海軍軍人ヨリ郷里青少年ニ志願兵志願ヲ勸誘ノ件照會

戰局ノ進展ニ鑑ミ優秀ナル志願兵ノ獲得ハ海軍戦力充實上刻下ノ急務ナル處國內ノ優秀ナル青少年ハ主トシテ軍需工場及陸軍諸學校方面等ニ吸收セラレツツアル爲多數採用ヲ要スル志願兵ノ素質ハ充分トハ謂ヒ雖キ實情ニ在リ本件ニ關シテハ海軍當局トシテハ種々ノ對策ヲ講ジツツアルモ特ニ先輩タル海軍

0587

軍人ヨリノ勸誘ハ青少年ニ及ボス影響極メテ効果的ナルモノト認ムルニ付部下士官、兵ヲシテ郷里出身學校又ハ個人宛此ノ際極力優秀ナル青少年ヲシテ多敷海軍ヲ志願スル如ク通信セシメ本年九月ヨリ開始ノ志願兵徵募ニ關シ側面的ニ協力スル様示達相成度

○ 雜 款

○ 旅費支給ニ關スル件

當基地ヘノ赴任轉勤者ニ對スル旅費(但シ家族移轉料ヲ除ク)ハ總テ仙石線(舊宮城電鐵道)矢本驛迄前金拂ノコトニ取計ハレ度
(横領松島航空基地)

○ 事務開始

第一三三號特設輸送艦艇裝員事務所ヲ五月十八日佐世保海軍工廠内(第三艦裝員事務所)ニ設置シ事務ヲ開始セリ
(電話番號 佐廠 一三五六)

伊號第五十八潜水艦艇裝員事務所ヲ六月五日横須賀海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○ 事務所撤去

第一三一號特設輸送艦艇裝員事務所ハ五月十五日之ヲ撤去セリ
第四百號輸送艦艇裝員事務所ハ五月二十五日之ヲ撤去セリ

砲艦南海艦裝員事務所ハ六月七日之ヲ撤去セリ
驅逐艦桃艦裝員事務所ハ六月十日之ヲ撤去セリ

第三十八號掃海艇裝員事務所ハ六月十日之ヲ撤去セリ

第三十四魚雷調整班事務所(洲ノ崎海軍航空隊横須賀分遣隊内)ハ六月十二日之ヲ撤去セリ

○ 轉勤者赴任先

當隊ハ四月二十日附築城航空基地ヨリ美幌航空基地ニ進出ニ付キ轉勤者ハ美幌航空基地ニ赴任(旅費ハ家族移轉料ヲ除ク外ハ前金拂)ノコトニ取計ヲ得度
(第五五三海軍航空隊)

一 准士官以上

横須賀市稻岡町 海軍小園部隊本部
二 下士官及兵
神奈川縣高座郡大和町 厚木航空基地
(第三〇二海軍航空隊)

○ 正誤

四月七日海軍公報號外通牒欄經監一第八號ノ六戰時海軍計算證明ノ取扱要領ニ關スル件中進第七第二項中「支那、タイ、」ハ「支那、佛領印度支那、タイ、」ノ誤
本月十日附海軍公報(部内限)八四一頁上段令達欄「官房經第

七九四號」ハ「官房經第五六一號」ノ誤

六月十四日海軍公報(部内限) 令達欄官房經機密第八二〇號第
二表航海加俸備考第二號中「各科中(七等ノ者ニ限ル)」ハ「各
科中尉(七等ノ者ニ限ル)」ノ誤

海軍中尉從七位工藤典男六月二日飛行訓練中遭難殉職、
同日筑波海軍航空隊ニ於テ佛式ニ依リ海軍葬儀執行セ
リ

大東亞戰爭戰歿者故海軍中將中原義正外諸勇士ノ合同海
軍葬儀ヲ來六月二十七日(火) 午前十時三十分横須賀鎮
守府大會議堂ニ於テ佛式ニ依リ執行

(別表)

(昭和十九年六月二十一日海軍公報(部内限))

長	員	委	
海軍次官		陸軍次官	
長	員	委	副
究部長	海軍技術研究所電波研究部長	多摩陸軍技術研究所研究部長	

備考

一 審議ニハ本表ノ外所要ノ關係者ヲ參加セシムルコトヲ得
 二 兼務委員ハ幹事長ノ兼務トス

事		幹		長事幹		員							委		
需軍	軍海	軍陸	軍海	軍陸	需軍	軍	海	陸	軍	陸	軍	陸	需軍	軍	
軍需省航空兵器總局第二局電器課課員	海軍航空技術廠部員	海軍技術研究所部員又ハ	多摩陸軍技術研究所部員	海軍技術研究所部員	多摩陸軍技術研究所部員	海軍航空技術廠支廠部員	海軍航空技術研究所部員又ハ	海軍航空技術廠支廠部員	海軍航空技術研究所部員又ハ	海軍航空技術研究所部員又ハ	海軍航空技術研究所部員又ハ	海軍航空技術研究所部員又ハ	海軍航空技術研究所部員又ハ	海軍航空技術研究所部員又ハ	海軍航空技術研究所部員又ハ
一	二	二				四(内兼務一)									

0590

海軍公報

(部内限) 第四七二〇號

昭和十九年六月二十二日(木)
海軍大臣官房

○令 達

達第一九九號
海軍各廳處務通則中左ノ通改正ス

昭和十九年六月十九日

海軍大臣

第三十一條ノ二廳長必要ト認ムルトキハ廳内通達簿ヲ備ヘ所要ノ令達其ノ他告知事項等ヲ記載シ關係者ニ閱覽承知セシムヘシ

(諸例則卷一、七二頁參照)

達第二〇〇號

海兵團職員服務規程中左ノ通改正ス

昭和十九年六月二十日

海軍大臣

第一條及第六條第二項中「鎮守府司令長官」ヲ「所屬長官」ニ改ム

第四條及第七條中「第一國民兵役」ヲ「補充兵役又ハ第一國民兵役」ニ改ム

(諸例則卷一、三六一頁參照)

海軍公報(部内限) 第四七二〇號

昭和十九年六月二十二日

八七七

達第二〇一號

昭和十八年達第二百十三號中左ノ通改正ス

昭和十九年六月二十日

海軍大臣

「電話手」ヲ「雇員及傭人」ニ改ム

(參照) 昭和十八年達第二百十三號ハ陸上部隊ニ在リテハ電話手ニ女子ヲ使用スルコトヲ得ル件ナリ諸例則卷二、七九五頁

官房經機密第八四三號

當分ノ間臨時魚雷艇訓練所所員タル首席主計科士官ヲ契約擔任官ト定メ同所ニ於テ要スル契約ヲ擔任セシム

昭和十九年六月二十一日

海軍大臣

官房經第五八三號

昭和十九年官房經第八八號中左ノ通改正ス

昭和十九年六月二十一日

海軍大臣

第十三條(ロ)次ニ左ノ一號ヲ加フ

(ハ) 前各號ニ該當セザル部隊其ノ他ノ各部ニ勤務スル者ニ在リテハ横須賀市但シ特務士官、准士官以下ノ軍人ニ在リテハ

0592

規定ハ昭和十八年六月一日以後ノ給與ニ付テ之ヲ適用ス

(参照) 昭和十九年二月一日海軍公報(部内限)

〇 通 牒

兵備四第二五六號

昭和十九年六月二十一日

海軍省兵備局長

關係各廳長殿

海軍ニ於ケル國民體力法ニ依ル被管理者ノ體力

検査ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シ從來昭和十六年官房第三六五九號ニ依リ海軍作業廳ニ於ケル被管理者ニ對シテノミ海軍自體ニ於テ實施中ノ處右以外ノ海軍各廳ニ於ケル被管理者ニ對シテモ軍事上ノ必要ニ基キ海軍自體ニ於テ實施ノコトト相成目下右官房號改正手續中ナルモ實施期日ノ關係上右改正ヲ俟ツコトナク實施ノコトニ定メラレ候條可然取計相成度

經給第一〇一號

昭和十九年六月二十一日

海軍省經理局

關係各廳御中

旅費支給ニ關スル件通牒

今般官房經第五八三號ヲ以テ昭和十九年官房經第八八號中改正セラレ候處原駐基地若ハ航空基地ニ在ル航空隊又ハ戰地ニ派遣

本人ノ在籍ノ領守府又ハ警備府ノ所在地
第十三條ノ二 原駐基地ノ定メアル航空隊又ハ航空基地ニ勤務スル者ノ家族移轉料支給上ノ勤務地ハ前條ノ規定ニ拘ラズ當該部隊編成又ハ基地設定時ニ於テ當該司令長官ノ指定スル當該部隊又ハ基地所管ノ領守府若ハ警備府又ハ麾下ノ航空隊若ハ航空基地ノ所在地トス
第十四條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ領守府若ハ警備府又ハ部隊若ハ基地ヲ指定シタル場合ニ之ヲ準用ス
又ハ部隊若ハ基地ヲ指定シタル場合ニ之ヲ準用ス
第十四條 第一項及第二項中「部隊又ハ」ヲ夫々「領守府若ハ警備府又ハ麾下ノ部隊若ハ」ニ改ム
第十五條中「前三條」ヲ「前四條」ニ改ム
第十七條ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ノ規定ハ第十三條ノ二ニ掲グル職員基地移動ノ爲同條ニ規定スル指定勤務地外ニ轉ズル場合ニ付之ヲ準用ス
第十八條 新設ノ部隊其ノ他ノ各部ニ配員ノ豫定ヲ以テ其ノ開隊(廳)前主トシテ其ノ準備ノ爲轉勤ヲ命ゼラレタル者ニハ轉勤ノ日ヨリ其ノ開隊(廳)ノ日迄家族移轉料ノ支給ヲ停止ス但シ新所屬廳ノ所在地新所屬廳所管ノ領守府又ハ警備府ノ所在地(特務士官、准士官以下ノ軍人ニ在リテハ本人ノ在籍ノ領守府又ハ警備府ノ所在地)ト同一ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

附 則

本令ハ昭和十九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十八條ノ改正

ノ目的ヲ以テ編成セラレタル部隊其ノ他ノ各部ノ編制地ニ初
メテ赴任又ハ轉勤スル者ノ旅費(家族移轉料ヲ除ク)ハ舊勤務
地(旅行中ノ者ニ在リテハ現在地初任ノ者ニ在リテハ居住地)
ヨリ當該部隊ノ所在地(編制地)迄赴任又ハ轉勤旅費ヲ支給ノ
コトニ取扱ヲ一定ス

艦本機密第一一號ノ八七七三

昭和十九年六月二日

海軍艦政本部總務部長

關係各廳長殿

在庫兵器現狀表提出部數ニ關スル件通知

兵器經理規程第四十七條ニ基ク在庫兵器現狀表ノ提出部數ハ常
分ノ間各一部宛送付ノコトニ取計相成度追テ昭和十二年艦本機
密第三四二號照會(各二通送付方ノ件)ハ廢止ス

○雜 款

○開隊

六月一日左ノ通開隊セリ

第九五三海軍航空隊(舊東港航空基地東港水偵隊)

臺灣高雄州東港郡東港街

第九五三海軍航空隊淡水派遣隊(舊淡水航空基地)

臺灣臺北州淡水郡淡水街

第九五三海軍航空隊三〇派遣隊(舊第三〇航空基地)

臺灣馬公街猪母水

(第九五三海軍航空隊)

○事務所移轉

第四魚雷調整班ハ六月十五日佐世保軍港魚雷調整場内ニ事務所
ヲ移轉セリ

○事務開始

第三十號海防艦機裝員事務所ヲ六月十二日長崎市飽ノ浦町長崎
海軍監督官事務所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第二十五號海防艦機裝員事務所ヲ六月十三日横濱市鶴見區辨天
町一七日本鋼管株式會社鶴見造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

吳海軍病院大阪分院ヲ六月十五日兵庫縣西宮市上瓦林字熊野五
一二ニ設置シ事務ヲ開始セリ

(二) 下車驛 省線甲子園口
郵便局 兵庫縣西ノ宮局

(吳海軍病院)

○電話設置

電話岡山 {六五〇〇番(既設)
八一三二番(増設)}

(在岡山海軍首席監督官)

○事務所撤去

伊號第五十六潜水艦機裝員事務所ハ六月八日之ヲ撤去セリ

海軍公報(部内限) 第四七二〇號 昭和十九年六月二十二日

八七九

0594

伊號第三六四潜水艦艦裝員事務所ハ六月十四日之ヲ撤去セリ

第三十二魚雷調整班事務所（洲ノ崎海軍航空隊横須賀分遣隊内）ハ六月十七日之ヲ撤去セリ

○正誤

六月十九日附海軍公報（部内限）令達欄八七一頁上段一行目「官房空第一六三〇號」ハ「官房空機密第一六三〇號」ノ、同十三行目「官房經第八三五號」ハ「官房經第五八一號」ノ誤
昭和十九年達第七十號中三七九頁一行目「略衣袴、略帽、禪及手袋」ハ「略衣袴及略帽」ノ誤

○取消

五月四日附海軍公報（部内限）六四六頁上段運輸通信省傭人金子三郎、六四七頁下段同平山仙吉、六五一頁下段同朴允吉、六五二頁上段同小林孝二、同伊藤邦盛ノ辭令文ハ孰モ之ヲ取消

大東亞戰爭戰歿者故海軍大尉川口周市外諸勇士ノ合同海軍葬儀ヲ來七月八日午前十時新潟市公會堂ニ於テ拂式ニ依リ執行

0595

海軍公報

(部内限) 第四七二一號

海軍大臣官房

昭和十九年六月二十三日(金)

○令 達

達第二〇二號

昭和十八年度及昭和十九年度ニ於テ建造ニ着手ノ驅逐艦四隻、
潜水艦三隻、海防艦六隻及輸送艦一隻ニ左ノ通命名ス

昭和十九年六月二十日

海軍大臣

株式會社藤永田造船所ニ於テ建造

驅逐艦 樫(カシ)

舞鶴海軍工廠ニ於テ建造

驅逐艦 樫(カヤ)

横須賀海軍工廠ニ於テ建造

驅逐艦 檜(ヒノキ)

驅逐艦 楓(カヘデ)

吳海軍工廠ニ於テ建造

伊號第二〇一潜水艦

川崎重工業株式會社ニ於テ建造

波號第一〇一潜水艦

波號第一〇二潜水艦

第五十六號海防艦

日本鋼管株式會社鶴見造船所ニ於テ建造

第三十三號海防艦

第三十五號海防艦

第三十九號海防艦

株式會社播磨造船所ニ於テ建造

第三百三十二號海防艦

第三百三十四號海防艦

三菱重工業株式會社横濱船渠ニ於テ建造

第八號輸送艦

官房人機密第一三三二號

鎮海海兵團及鎮海海軍人事部特務士官以下ハ吳鎮守府在籍者ヲ

以テ之ヲ補充スベシ

本令ハ昭和十九年二月一日ヨリ之ヲ適用ス

昭和十九年六月二十一日

海軍大臣

○通 牒

官房備第一〇八號

昭和十九年六月二十一日

海軍省副官

海軍公報(部内限) 第四七二一號

昭和十九年六月二十三日

八八一

0596

關係各廳長殿

壯丁ノ徵兵官ニ對スル職種應答ニ關スル件照會
 首題ノ件ニ關シテハ本年官房備第三八號(本年三月二十八日海
 軍公報(部内限)參照)ニ依リ照會致候處今般陸軍省副官ヨリ
 別紙寫ノ通牒有之候條可然取計相成度

(別紙)

陸密第二〇三三號

昭和十九年五月二十日

陸軍省副官

海軍省副官殿

壯丁ノ徵兵官ニ對スル職種應答ニ關スル件通牒
 本年二月陸密第六七五號ニ依ル高度ノ機密ニ互ル業務ニ從事セ
 ル者ニシテ徵兵官ノ職業調査ニ對シ申告シ得ザル者ニ對シテハ
 貴省ヨリ關係ノ向ニ對シ兵種選定ニ必要ナル事項(例ヘバ熔接
 工、旋盤工等)ハ申告スル如ク指導相成度
 追テ爾今該當者アルトキハ名簿ヲ提出スルコトナク本趣旨ニ
 依リ指導相成度

兵備三機密第五五八號

昭和十九年六月二十一日

海軍省兵備局

關係各廳御中

海軍配當船名ノ件通知

昭和十八年達第二百五十六號ニ依ル海軍配當船名左記ノ通
 記 (昭和十九年六月一日現在)

船名	船番號	總噸數	船主	所管
第二岡南丸	四三六五〇	一九、二六二	日本海洋漁業	吳鎮
愛宕丸	三〇九一六	七、五四二	日本郵船	佐鎮
松本丸	二八一〇九	七、〇二四	同	吳鎮
武豐丸	二七六九七	六、九六四	同	橫鎮
白馬丸	三四〇〇四	六、六五〇	三井船船	吳鎮
日鐵丸	四九八八四	五、九九三	日産汽船	同
武津丸	四九三九〇	五、九四九	鳥谷汽船	橫鎮
山幸丸	四九八四七	五、九四八	山下汽船	同
春天丸	三三五八八	五、六二三	大同海運	吳鎮
那須丸	三七一三三	四、三九九	三井船船	橫鎮
神州丸	三八五八一	四、一八二	巴組汽船	吳鎮
金津丸	四九七五七	二、八六七	攝津商船	橫鎮
第五雲海丸	四九八五五	二、八四一	中村汽船	吳鎮
昭永丸	四九五三八	二、七六四	原田汽船	同
國光丸	五〇五三二	二、八六三	飯野海運	橫鎮
崑山丸	三三七	二、七三三	大連汽船	吳鎮

0597

日興丸	河南丸	豊成丸	安城丸	東城丸 (川崎重工業) (T.L.五番船)	東丸 (日立櫻島二TM) (八番船)	あやせ丸 (日立櫻島二TM) (七番船)	あやせ丸 (日立櫻島二TM) (三〇四四番船)	第七彌祭丸 (播磨松浦三E.T) (二〇四六番船)	第五蓬萊丸 (播磨松浦三E.T) (二〇四六番船)	第三高砂丸 (播磨松浦三E.T) (二〇四二番船)
三三九九四	四七〇二九	引揚船	手横中	手横中	手横中	五二七八五	五二八四二	五二八四六	五二八四六	八三四
三、〇九八	三、三一〇	六九六	二、〇八六	一、〇〇〇	二、八五〇	二、八五四	八三四	八三四	八三四	八三四
三菱汽船	大阪商船	三菱汽船	飯野海運	飯野海運	同	石原汽船	共 タンカー	同	同	同
同	吳鎮			同	同	同	同	同	同	吳鎮

電本機密第五七號

昭和十九年六月九日

海軍電波本部總務部長

海軍艦政本部總務部長
海軍航空本部總務部長
關係各工作廳總務部長
股
訓令通牒等ニ記載スル費用ノ整理區分ニ關スル件通知

○難款

當本部起案又ハ發布ノ訓令通牒等ニ記載スル費用ハ艦本、航本配付ノ豫算ト區別スル爲節科目ノ下ニ(波)ノ符號ヲ附記可致ニ付了知相成度

(例)

臨時軍事費 臨時軍事費 研究費 船體機關及兵器研究費(波) 別途(一般) 配付豫算内支辨トス

○旅館指定

本院方面ニ旅行スル海軍軍人軍屬及准士官以上入院退院患者ノ便ヲ圖ル爲左記旅館指定特約致候ニ付利用相成度

記

静岡縣田方郡伊東町湯川中丸一六五番地(伊東驛前)

東洋館 原田ヤヨ

電話伊東 二六〇番

一泊二食附稅共	准士官以上	下士官兵
六、五〇		四、五〇
半泊一食附稅共		三、〇〇
四、〇〇		

昭和十九年六月十八日

(湊海軍病院)

○本日普通公報發行セズ

0599

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第四七二二號

昭和十九年六月二十四日(土)

海軍大臣官房

○ 令 達

達第二〇三號
燃料試驗規格中左ノ通改正ス

昭和十九年六月二十三日

海軍大臣

新二號重油規格中「本重油ハタラカン油ニシエール油又ハフイ
ツシヤール油ヲ混シタルモノニシテ」ヲ「本重油ハタラカン油ニ
シエール油、フイツシヤール油又ハ石輕油ノ亞硫酸精製油ヲ混シ
タルモノニシテ」ニ改ム

官房經第五八五號

昭和十八年官房經第四三七號中左ノ通改正ス

昭和十九年六月二十二日

海軍大臣

第二號中「陸軍給與令第一表、第三表及第四表」ヲ「大東亞戰
爭陸軍給與令第一表及第二表」ニ改ム

第四號ニ左ノ一項ヲ加フ

副長ニ於テ必要アリト認メタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ召
集令狀ニ基キ前項イニ該當スル事項及該令狀ニ記載シアル官
階職階(官等級)ニ相當スル俸給額(級俸アルモノハ其ノ最

下級俸ノ額)ヲ記載シタル調書ヲ作成シ補給ヲ爲スコトヲ得

(参照) 海軍會計法規類集 八〇八ノ二三頁

官房教第四九號

學術獎勵賞授與内規ニ依ル賞品ノ授與取止等ニ關シ左ノ通定ム

昭和十九年六月二十三日

海軍大臣

一 當分ノ間學術獎勵賞授與内規ニ依ル卒業者ニ對スル賞品ノ
授與ヲ取止ム

二 當分ノ間成績優等者ニ對シテハ學術獎勵賞授與内規第四條
ニ定ムル標準ニ依リ優等證書ヲ授與ス

三 前號ノ優等證書ノ様式ハ別紙第一又ハ第二ニ依ル

(別紙様式二葉添)

○ 通 牒

軍務一機密第五〇九號

昭和十九年六月二十二日

海軍省軍務局長
海軍省醫務局長

海軍公報(部内限) 第四七二二號 昭和十九年六月二十四日

八八五

0600

各鎮守府參謀長
 各警備府參謀長
 各艦隊參謀長
 海軍練習聯合航空總隊參謀長
 海上護衛隊參謀長

近時國內全般ニ亙リ發疹チフス流行シ尙蔓延ノ兆アルニ鑑ミ本病媒介源タル虱ノ驅除ハ防疫上重要不可缺ノ事ニ有之本件ニ關シテハ從來共各部ニ於テ極力實施中ナル處若年兵、徵用工員及供給入夫ニハ今尙虱ヲ有スル者比較的多ク最近一二所轄ニ於テ該患者發生シタルモノアリ殊ニ徵用工員及供給入夫便乗ノ輸送船内患者發生ニ際シテハ同時ニ虱ノ發生甚敷ク爲ニ之ヲ防疫ニ多大ノ時間ト勞力トヲ浪費シ輸送計畫ニモ影響ヲ及ボシタル實例有タルニ付虱ノ發生區域ニ對シテハ人、被服、寢具、居住ニ就キ虱驅除ノ徹底強化ヲ圖リ以テ防疫ノ完璧ヲ期スル様取計相成度

海人三機密第二號ノ二四

昭和十九年六月二十四日

海軍省人事局長

關係各所轄長殿

昭和十九年後期上等下士官(豫備員ヲ除ク)進

級拔擢名簿ニ登載スベキ範圍ニ關スル件通牒

首題ノ件左記ノ通定メラレ候

記

一 現役員

(イ) 掌飛行兵

昭和十八年十一月一日以前上等下士官ニ進級ノ者
 (ロ) 右以外ノ者
 昭和十七年十月三十一日以前上等下士官ニ進級ノ者
 二 應召員
 夫々現役員ト同等以上ノ經過年(現官ヘノ進級後ノ現役期間及現官トシテ召集中ノ期間ヲ通算シタルモノ)ヲ有スル者

○ 雜 款

○ 服裝

佐世保方面(九州、四國各地ヲ含ム)ハ本年六月二十日ヨリ七月九日迄第二種軍裝ノ夏袴ニ代ヘ軍袴ヲ着用スルコトニ定メラル
 (佐世保鎮守府副官)

岡山地方ニ於ケル夏季服裝着用期間左記ノ通

記

自昭和十九年六月二十日

至昭和十九年九月二十日

但シ七月九日迄ハ軍袴ヲ着用ス

(在岡山海軍首席監督官)

○ 開隊

横須賀海軍航空隊大分分遣隊ハ六月十五日大分縣大分市今津留(舊大分航空基地)ニ開隊セリ、

○ 事務所移轉

横濱在勤海軍武官府ヲ六月十一日横須賀鎮守府横濱綜合事務所

0601

(假稱)横濱市中區海岸通二丁目一番地横濱海運局廳舎内ニ移
轉シ事務ヲ開始セリ

電話 海軍電話(横領交換)一三二、一三三、一三五番
市内電話(横濱本局)五五〇九、五五二〇番

○事務開始
伊號第三七〇潜水艦艦裝具事務所ヲ六月十日三菱重工業株式會
社神戸造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

(電話番號(兵)三八七六番)

○正誤
六月八日附海軍公報(部内限)辭令欄八二九頁下段四行目「森
本幸市」ハ「藤本幸市」ノ、同十二日附海軍公報(部内限)號
外九頁上段五行目清水良一ノ辭令ハ「横須賀海軍施設部勤務」
ノ、同二十一日附海軍公報(部内限)八七三頁令邊欄上段「官房
軍機密八二三號」ハ「官房軍機密八三三號」ノ孰モ誤

合同海軍葬儀執行

期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場所	記事
七月五日午前十時三十分	故海軍少佐村上正夫外諸勇士	仙臺地方海軍人事部長	仙臺市東本願寺	佛式
七月八日午後一時	故海軍少尉春木松雄外諸勇士	札幌地方海軍人事部長	札幌市東本願寺	同
七月九日同	故海軍少佐谷川充外諸勇士	静岡地方海軍人事部長	静岡市市公會堂	同
七月十日同	故海軍少尉古閑正吉外諸勇士	秋田地方海軍人事部長	秋田市縣記念會館	同
七月十二日同	故海軍少將清水柳太郎外諸勇士	宇都宮地方海軍人事部長	宇都宮市縣教育會館	同
七月十二日午前十時三十分	故海軍兵曹長瀧澤孝記外諸勇士	盛岡地方海軍人事部長	盛岡市縣公會堂	同
七月二十一日午後一時	故海軍少佐山口春雄外諸勇士	長野地方海軍人事部長	長野市藏春閣	同
同	故海軍少尉川村清三郎外諸勇士	青森地方海軍人事部長	青森市市公會堂	同

本日普通公報發行セズ

海軍公報(部内限)第四七三號 昭和十九年六月二十四日

八八七

0602

別紙第一（學術獎勵賞授與内規第二條所定ノモノ）（海軍省ニ於テ調製ス）

（昭和十九年六月二十四日海軍公報（部内限））

第 號

賞 狀

第 期 科 術練習生卒業成績優等ニ付之ヲ賞ス

昭和 年 月 日

海軍大臣 氏

名

官印

0603

別紙第二(學術獎勵賞授與内規第三條所定ノモノ)(各教育廳ニ於テ調製)

(昭和十九年六月二十四日海軍公報(部内限))

第 期	第 號
科	賞 狀
昭和 年 月 日	術練習生卒業成績優等ニ付之ヲ賞ス
教育廳長 氏	
名	
職印	

0604

海軍公報 (部内限) 第四七三號

昭和十九年六月二十六日(月)
海軍大臣官房

○令 達

官房人機密第一三六八號
本年六月二十日現在第二十五海軍建設部アンボン支部ニ勤務ノ職員ハ特ニ發令セララルモノノ外別ニ附令ヲ用ヒズシテ第二十六海軍建設部アンボン支部ノ各相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和十九年六月二十日

海軍大臣 臣

官房第一六六號

經營需品定額表中數量左ノ通定ム

昭和十九年六月二十二日

海軍大臣 臣

主計長主管

艦 部 隊 名	品 類 及 番 號	區 別	消 耗 品	記 事
		一 二 ノ 二 九	セ ロ フ ア ン 紙	
定 數	枚			

航空機裝備艦船
航空隊及航空基地

※ ※

官房經第五八六號

昭和十八年官房經第九八一號中左ノ通改正ス

昭和十九年六月二十三日

海軍大臣 臣

別表第一備考ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ所轄長、海軍經理部長又ハ海軍軍需部長特ニ必要アリト

認メタルトキハ本表ノ金額ノ範圍内ニ於テ臨時手當及被服物

品ヲ併給スルコトヲ得

別表第二ヲ別表ノ如ク改ム

(別表添)

(參照) 海軍機密會計法規類集一三〇ノ三六頁

○通 牒

軍務機密第五一〇號

昭和十九年六月二十二日

海軍省軍務局長

各鎮守府參謀長
各警備府參謀長
海軍練習合隊參謀長
海軍練習隊參謀長
海軍練習隊參謀長
海軍練習隊參謀長

海軍公報(部内限) 第四七三號 昭和十九年六月二十六日

八八九

0605

船舶乗組員ノ傷病診斷ニ協力ノ件申進
首題ノ件ニ關シ運輸通信省海運總局長官ヨリ別紙ノ通依頼有之候處左記ニ依リ協力ノコトニ定メラレ候ニ付可然取計相成度

記

- 一 船舶乗組員ニシテ傷病ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ下船ノ爲又ハ豫備船員ニシテ乗船延期ノ爲海運總局(支局及出張所ヲ含ム)船長又ハ船舶所有者(代理店ヲ含ム)ヲ通ジ診斷ノ願出デアリタル場合ハ本務ニ支障ナキ限り成ルベク速ニ診察シ所要ノ診斷書ヲ下付スルモノトス
- 二 被診察者ハ海運總局トノ間ニ於テ定メラルベキ實施要領ニ基キ左ノ各部ノ最寄ノ場所ニ出頭受診スルモノトス

- 海軍 軍醫學校
- 横須賀 海軍病院
- 吳 海軍病院
- 佐世保 海軍病院
- 舞鶴 海軍病院
- 大 阪 警備府
- 大 湊 海軍病院
- 鎮 海 海軍病院
- 高 雄 海軍病院
- 下 關 防備隊
- 鹿兒島 海軍航空隊

三 受診手續

海運總局(同支局、出張所)船舶運營會(同支部、出張所)船長又ハ船舶所有者(代理店ヲ含ム)ヨリ理由ヲ附シ前號ノ診察所ノ廳長宛直接依頼スルモノトス但シ關係者ニ於テ明ニ下船又ハ乗船延期至當ト認メラルル重病(傷)者ハ軍醫科士官ノ診斷ヲ要セザルモノトス

(別紙)

海員服第三四九號

昭和十九年四月十三日

運輸通信省海運總局長官

海軍省兵備局長
陸軍省整備局長 殿

船舶乗組員ノ傷病診斷ニ關スル件

現下諸般ノ情勢ニ鑑ミ船員ノ恣意ニ依ル下船又ハ乗船延期ハ嚴重之ヲ防止スルノ要アル處傷病ニ基ク下船又ハ乗船延期ニ關シテハ其ノ性質上特ニ慎重ヲ期シ度ニ付之ヲ診斷ヲ貴省管下ノ醫務機關ニ依頼シ以テ公正ナル斷定ト併テ士氣ノ振張ヲ圖ルコトト致度此段及御依頼候

追而本件適用ノ範圍ハ船舶運營會構成員所屬船員トシ診斷施行地ハ差當リ左記各港ヲ指定致度モ貴省ノ意向回報相煩度候

記

東京、横濱、大阪、神戸、名古屋、新潟、敦賀、伏木、門司、若松、八幡、長崎、三池、鹿兒島、小樽、函館、室蘭、高雄、

海人機密第七五號

昭和十九年六月二十三日

海軍省人事局長

關係各廳長殿

定期考課表ニ關スル件申進

首題ノ件本年五月三十一日任用ノ豫備學生出身士官ニシテ各教育廳特修學生タル者ニ對シテハ官房入第五五八號ノ規定ニ拘ラズ進達スルニ及バザル義ト了知相成度

經給第一〇四號

昭和十九年六月二十三日

海軍省軍需局長
海軍省經理局長

關係各廳長殿

臨時手當支給標準及被服物品代價ニ關スル件
中改正ノ件通牒

昭和十八年經給第一四五號中左記ノ通改正ス

記

第一號ノ被服物品代價表ヲ別表ノ如ク改ム

第三號ニ左ノ一項ヲ加フ

官房經第九八一號別表第一備考但書及同號別表第二備考第二號ノ但書ニ依リ臨時手當及被服物品ヲ併給スル場合前項ノ規定ヲ準用ス

(別表添)

(參照) 海軍機密會計法規類集一三〇ノ三七頁

海軍公報(部內限) 第四七二三號 昭和十九年六月二十六日

艦本機密兵電第六五六號

昭和十九年六月十四日

海軍艦政本部總務部長
海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿

兵器移管ニ關スル件申進

二月九日官房艦機密第二三號ノ一兵器簿ノ件通達(海軍公報(部內限)參照)ニ依リ海軍艦政本部關係(內務長主管及內務長主管)兵器簿ヨリ削除相成候左記兵器ハ航空兵器飛行長主管第一類ニ移管ノコトニ定メラレ候

記

一 電動機之部中飛行機昇降機用、着艦制動裝置用、橫索扛起用、前面遮風柵用、格納庫及防火扉用、飛行機揚卸用、橋起倒用、輕質油泵用(航空母艦ノミ)、輕質油庫通風機用(同)、以上ノ電動機ト同類ノモノ

二 電動交流發電機、電動直流發電機、直流變壓機之部中飛行機昇降裝置用

本機密第一九四號ノ一

昭和十九年六月十六日

水路部長

關係各廳長殿

普通陸圖ヲ秘密地圖ニ編入ノ件通牒

首題ノ件ニ關シ大本營陸軍參謀部ヨリ別紙ノ通牒有之候條了

八九一

0607

知相成度

(別紙)

大本營陸軍部參機密第三二號第二

普通圖ヲ軍事秘密地圖ニ編入ノ件通牒

昭和十九年六月六日

大本營陸軍部參謀部總務課長

水路部 長殿

別紙目錄ノ地圖ヲ「軍事秘密」(戰地ニ在リテハ「極秘」)地圖ニ又改措セザル秘密區域ヲ包含スル總テノ二十萬及五十萬分ノ一内邦圖ヲ「部外秘」地圖ニ編入セラレタルニ付左記ニ基キ整理相成度依命通牒ス

追而秘密區域ヲ包含スル二十萬及五十萬分ノ一内邦圖ハ其ノ秘密區域ヲ規定ニ據リ改措ノ上普通圖トナシ陸地測量部ヨリ近ク發行セラルベキニ付爲念申添フ

左記

- 一 各部隊(戰地ヲ除ク)官衙及學校ニ保管シアル別紙目錄ノ地圖ハ各所管毎ニ取纏メ焼却ノ上昭和十九年七月三十一日迄ニ參謀本部ニ報告スルモノトス
- 但シ將來保管ヲ必要トスルモノハ各所管毎ニ「軍事秘密」ヲ標記シ保管數ヲ報告スルモノトス又秘密區域ヲ包含スル二十萬及五十萬分一内邦圖ニハ「部外秘」ヲ標記スルモノトス
- 二 同右ノ地圖ニシテ個人所有ノモノハ之方回收ニ遺憾ナキヲ期スルモノトス

但シ秘密區域ヲ包含スル二十萬及五十萬分一内邦圖ハ總テ「部外秘」地圖トシテ使用セシムルモノトス

三 戰地ニ在リテハ各部隊毎ニ「軍事秘密」(戰地ニ在リテハ「極秘」)並ニ「部外秘」ヲ標記シ其ノ儘使用スルモノトス (別紙一葉添)

○ 雜 款

○ 事務開始

第四十一號掃海艇艇裝員事務所ヲ六月十八日大阪市住吉區柴谷町四四藤永田造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第五十三海軍航空隊(假稱)事務所ヲ六月十八日大分縣宇佐郡宇佐海軍航空隊氣付 七二一、七四五ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○ 殘務整理

當隊保管大分航空基地ハ六月十五日解散、殘務整理ハ大分縣大分市今津留廣須賀海軍航空隊大分分遣隊内ニ於テ之ヲ行フ (宇佐海軍航空隊)

○ 轉勤者赴任先

第二航空艦隊司令部ヘノ轉勤者ハ自今千葉縣匝環郡共和村香取航空基地(總武本線千鴻驛下車)ニ向ケ轉勤セシメラレ度 (第二航空艦隊)

○ 本日普通公報發行セズ

(官房経第五八六號別表第二)

(昭和十九年六月二十六日海軍公報(部内限))

考 備		被 服 物 品																		
一 本表ノ範圍内ニ於テ給與スル被服物品ノ代價ノ合計額ハ別表第一ノ金額ヲ超ユルコトヲ得ズ 二 本表ノ被服物品ヲ受クル者ニハ臨時手當ハ之ヲ支給セズ但シ所轄長、海軍經理部長又ハ海軍軍需部長特ニ必要アリト認メタル キハ別表第一ノ金額ノ範圍内ニ於テ臨時手當及被服物品ヲ併給スルコトヲ得	軍	短	長	略	帽	軍	略	夏	軍	品	名	數	品	名	數	品	名	數		
	刀	劔	劔	劔	覆	帽	衣	衣	袴	袴	袴	二	劔	帶	一	靴	靴	一		
	一	一	一	一	一	一	二	二	二	二	二	組	編	上	靴	一	肩	章	二	
	個	個	個	個	個	個	組	組	組	組	組	組	上	靴	靴	組	肩	章	組	

0609

(經給第一〇四號別表)

(昭和十九年六月二十六日海軍公報(部内限))

備考		被服物品、代價																	
軍衣袴及略衣袴ニハ襟章ヲ、軍帽及略帽ニハ前章ヲ含ム	軍	短	長	略	帽	軍	略	夏	軍	品	名	代價	品	名	代價	品	名	代價	
	刀	劔	劔	帽	日	帽	衣	衣	衣	劔	袴	五〇五〇	外	帶	二二〇〇	袴	下	五〇〇	
	一〇〇〇	九四〇	一七四〇	一五〇〇	二五	一二〇〇	二五〇〇	二〇八〇	五〇五〇	袴	袴	二〇〇〇	雨	衣	四六〇〇	袴	下	二〇〇	
	初	手	靴	編	半	飾	雨	外	劔	品	名	代價	靴	上	靴	一六五〇	袴	下	二〇〇〇
	袴	袋	下	靴	靴	緒	衣	衣	帶	品	名	代價	靴	下	靴	二〇〇〇	袴	下	二〇〇〇
	五五〇	九〇	夏冬 一五〇〇	二〇〇〇	一六五〇	三五〇〇	四六〇〇	六二〇〇	二二〇〇	品	名	代價	靴	下	靴	二〇〇〇	袴	下	二〇〇〇
	肩	開	行	脚	カ	白	夏	夏	袴	品	名	代價	袴	下	袴	二三五〇	袴	下	五〇〇
	章	襟	襟	絆	ラ	シ	袴	袴	袴	品	名	代價	袴	下	袴	二三五〇	袴	下	五〇〇
	二五〇	二八〇	三〇〇〇	三五〇〇	四五	二八〇	二〇〇	二三五〇	五〇〇	品	名	代價	袴	下	袴	二三五〇	袴	下	五〇〇
										品	名	代價	袴	下	袴	二三五〇	袴	下	五〇〇
										品	名	代價	袴	下	袴	二三五〇	袴	下	五〇〇
										品	名	代價	袴	下	袴	二三五〇	袴	下	五〇〇

0610

(水機密第一九四號ノ一別紙)

同	同	同	同	同	同	五萬分一	梯尺
錢洲一號	同 一五號	同 一四號	同 一二號	同 一〇號	同 九號	三宅島八號	總圖名
錢洲	神津島	地内島	三宅島西部	新島	利島	三宅島東部	圖名
同	同	同	同	同	同	五萬分一	梯尺
嬬婦岩一〇號	島一〇號	須美壽島一六號	列 <small>ベヨネイス</small> 岩一號	青ヶ島二號	同 一一號	御藏島五號	總圖名
嬬婦岩	島	須美壽島	ベヨネイス列岩	青ヶ島	潤灘波島	御藏島	圖名

(昭和十九年六月二十六日海軍公報(部内限))

0611

海軍公報

(部内限) 第四七二四號

昭和十九年六月二十七日(火)
海軍大臣官房

○令 達

達第二〇五號

海軍士官服制臨時特例施行細則左ノ通定ム

昭和十九年六月二十七日

海軍大臣 臣

大東亞戰爭中海軍ノ候補生及生徒ノ軍衣及軍袴又ハ夏衣及夏袴ノ製式ノモノハ當該候補生又ハ生徒海軍士官ニ任用後ニ於テモ海軍士官常時軍裝ヲ爲スベキ場合ニ軍衣及軍袴又ハ夏衣及夏袴トシテ之ヲ用フルコトヲ得但シ特ニ指定セラレタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

官房機密第八六九號

當分ノ間各學校ノ分校(部内限呼稱ノモノヲ含ム)勤務ノ首席主計科士官ヲ夫々契約擔任官ト定メ各分校ニ於テ要スル契約ヲ擔任セシムルコトヲ得

昭和十九年六月二十六日

海軍大臣 臣

○通 牒

海入三機密第二號ノ二五

昭和十九年六月二十六日

海軍公報(部内限) 第四七二四號

昭和十九年六月二十七日

各鎮守府參謀長
各警備府參謀長
各海軍管理長 殿

作業廳等從業員ノ志願兵志願ニ關スル件申進

最近生産力増強上必要トスル勞務員ノ數著シク増加セル爲志願兵志願適齡者ノ大部ハ部内工作廳及軍管理工場等ニ吸收セラレアル實情ニ付志願兵徵募ノ對象ハ主トシテ此ノ方面ニ指向スルノ已ムナキニ至リタル處從來工場事業場等從業員ノ海軍志願兵志願ハ經營者側ニ於テ雇傭契約等ノ理由ニ依リ或ハ國民徵用令ニ依ル徵用又ハ生産擴充等ノ理由ヲ以テ志願ヲ抑制シタル事例屢々有之最近漸次改善ノ跡ハ認メラルルモ尙跡ヲ斷ツニ至ラザルハ直接戰闘ニ從事スル海軍兵力充實ノ爲定ニ遺憾トスル次第ナルヲ以テ此ノ際部内作業廳ニ於テハ率先斯ノ如キ傾向ヲ拂拭スルハ勿論管理工場ニ對シテモ海軍ニテ必要トスル志願兵ノ充足ヲ優先トスル趣旨ヲ末端迄徹底セシムルト共ニ徵募宣傳等ニ關シテハ現地當局ノ要望ニ應ジ必要ナル便宜ヲ供與スル如ク關係各部ニ對シ可然指導相成度

○雜 談

八九三

0612

至四二頁ハ缺頁トス

○正誤

本年達第百四十三號(三一六頁)第八條第二號中「滿十三年」ハ「滿十四年」ノ、同第百七十號(三六九頁)ノ日附「四月二十三日」ハ「五月二十三日」ノ、同第二〇〇號中「鎮守府司令長官」ハ「鎮守府司令長官又ハ警備府司令長官」ノ孰モ誤、六月二十日附海軍縣令公報乙(部内限)第一號二頁下段池田一徳ノ辭令日附「五月三十日」ハ「五月三十一日」ノ誤、六月二十四日附海軍公報(部内限)雜款欄合同海軍葬儀執行ノ期日及時刻ノ項中「七月二十一日午後一時」ハ「七月三十一日午後一時」ノ誤

○入院患者賞與支給ノ件照會
本年官房入機密第一三四二號ニ依リ臨時賞臨支給セラルルコトト相成候ニ付六月三十日現在横須賀海軍病院(川奈分院、横濱假病舎、長濱假病舎、廣河原假病舎、湯河原假病舎、山田日本赤十字病院、大津日本赤十字病院ヲ含ム)ノ入院患者(下士官兵ヲミ)ニ對シテハ當部ニ於テ一併支給可致候條ニ重拂トナラザル様注意相成度
(横須賀海軍經理部)

○事務開始
第三十二號海防艦艇裝員事務所ヲ六月十二日長崎市飽ノ浦町長崎海軍監督官事務所内ニ設置シ事務所ヲ開始セリ
第三〇三設營隊ヲ六月十五日神奈川県藤澤市横須賀海軍施設部設營班内ニ設置シ事務所ヲ開始セリ

○事務所撤去
第一〇五號特設輸送艦艇裝員事務所ハ六月十五日之ヲ撤去セリ
驅逐艦竹籠裝員事務所ハ六月十六日之ヲ撤去セリ

洲ノ崎海軍航空隊横須賀分遣隊内第三十一魚雷調整班事務所ハ六月二十三日之ヲ撤去セリ

○取消
本年達第百九十三號(後送ス)ハ缺號トシテ取消シ自四二一頁

0613

同表艦隊ノ部ノ次ニ左ノ如ク加フ	航空隊司令	聯合航空隊司令官	航空隊司令	聯合航空隊司令官	防備隊司令	聯合航空隊司令官	防備隊司令	同表警備府ノ部中	獨立 艦隊司令 水雷艦隊長 海防艦隊長 潛水艦隊長 驅逐艦隊長	艦隊司令 水雷艦隊長 海防艦隊長 潛水艦隊長 驅逐艦隊長	特務隊 哨戒隊 敷設隊 輸送隊	艦隊長 艦隊長 艦隊長 艦隊長
	航空隊司令	首席參謀	練習航空隊司令	首席參謀	防備隊司令	首席參謀	防備隊司令	獨立 艦隊司令 水雷艦隊長 海防艦隊長 潛水艦隊長 驅逐艦隊長	艦隊司令 水雷艦隊長 海防艦隊長 潛水艦隊長 驅逐艦隊長	特務隊 哨戒隊 敷設隊 輸送隊	艦隊長 艦隊長 艦隊長 艦隊長	
	ニ改ム	ヲ	ヲ加フ	ノ次ニ					ニ改ム			

海上護衛總司令部	海上護衛司令官	司令官	參謀長	
別表第二號海軍武官實役停年計算期日、拔擢名簿調製期日、拔擢名簿候補名簿進達（移牒）期限表中「師範學校卒業業者ヲ除ク」及	（師範學校卒業業者）	十一月三十日	十二月一日	十二月十五日
官房經機密第八八二號	昭和十七年官房機密第一〇一七六號中「糧食」ノ下ニ「戰時特別給與品」ヲ加フ	昭和十九年六月二十八日	海軍大臣	
（參照）海軍機密會計法規類集 二四一頁	〇 通 牒	艦本機密第三號ノ九五二三	昭和十九年六月十三日	海軍艦政本部總務部長
關係各廳長殿	南方方面ニ供給ノ乾電池購買ニ關スル件申進	首題ノ件ニ關シ内地ヨリ供給ノモノニシテ暑熱ノ爲衰朽シ其ノ用ヲ爲サザルモノアル實情ナルニ鑑ミ乾電池ノ性能改善ニ關シ		

0615

銳意努力中ナル處最近中央購買名簿未登錄會社ノ製品ヲ購買セラルル向モ有之ヤニ及聞候ニ付テハ自今首題乾電池購買ニ關シテハ購買名簿登錄濟ノ會社ニノミ發註ノコトニ取計相成度

○ 雜 款

○書類發送ノ件

機密第一艦隊例規追録第六號(一月一日現在)六月十五日發送濟ニ付受領後ハ速ニ加除整理ヲ行ヒ受領票至急送付相成度
追テ未着ノ向ハ當部宛請求相成度
(聯合艦隊司令部)

○開隊

虎尾海軍航空隊ハ五月十五日臺灣臺南州虎尾郡虎尾街ニ開隊セ

リ
順路 縱貫鐵道斗南驛乘換社線虎尾驛下車徒步約二軒
第三十二海軍通信隊ハ六月一日開隊セリ

○實彈射擊實施

東京灣内別圖位置ニ於テ左記ニ依リ高角砲實彈射擊ヲ實施ス附近航行艦船ハ危險防止ニ關シ注意ヲ要ス

一日 時 六月二十九日(自〇九〇〇〇)至一一〇〇〇)

二 危險海面

對岸富津ヲ避ケ西方

(別圖一葉添)

(横須賀海軍砲術學校)

合同海軍葬儀執行

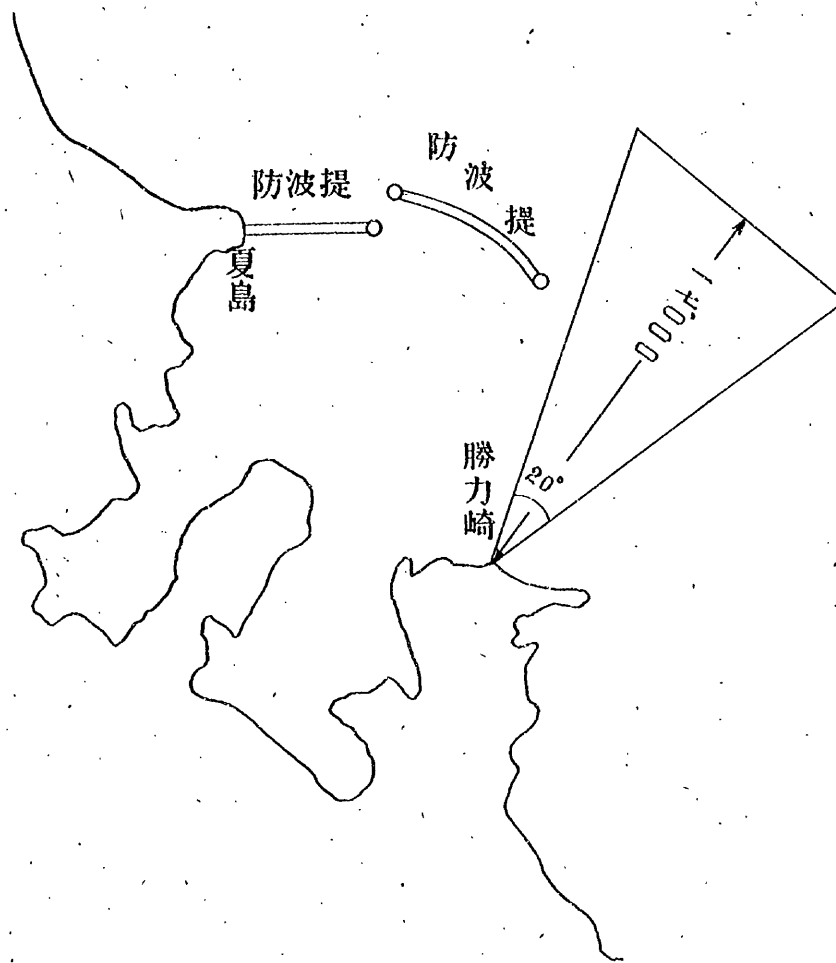
期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場	所	記事
七月三日午後一時	故海軍中尉黒川益雄外諸勇士	鹿兒島地方海軍人事部長	鹿兒島市西本願寺	佛式	
七月七日同 一時	故海軍中尉古城義巳外諸勇士	熊本地方海軍人事部長	熊本市公會堂	同	
七月十二日午前七時五分	故海軍少佐磯山長三郎外諸勇士	神戸地方海軍人事部長	神戸港軍人休憩所	同	
七月十三日午後一時	故海軍中尉飯野忠男外諸勇士	福岡地方海軍人事部長	本願寺福岡會館	同	
七月二十九日同 一時	故海軍中尉五味熊三郎外諸勇士	高松地方海軍人事部長	高松市縣公會堂	同	

海軍公報(部内限)第四七二五號 昭和十九年六月二十八日

八九七

0616

別圖



(昭和十九年六月二十八日海軍公報(部内限))

0617

海軍公報

(部内限) 第四七二六號

海軍大臣官房

昭和十九年六月二十九日(木)

○令 達

總第二〇六號

海軍考課表規則中左ノ通改正ス

昭和十九年六月二十七日

海軍大臣

第四條表中「師範學校卒業以外ノ者ニシテ」及「下士官任用資格ヲ有スル者」

兵 師範學校卒業者ニシテ下士官任用資格ヲ有スル者	長 十二月一日	十二月十五日
-----------------------------	------------	--------

ヲ削ル

第二十八條第三號中「横二團」ヲ「横團」ニ改ム

同條第六號(ハ)號ヲ左ノ如ク改ム

(ハ) 再現役ノ望否及許否

再現役ノ望否及許否ヲ記註ス

同條第六號(ホ)號中「横二團」ヲ「横團」ニ改ム

別表第一號海軍武官考課表調製區分表中「機雷學校」ヲ「對潛

學校」ニ、「艦政本部」ヲ「艦政本部」ニ改ム
「航空本部」ヲ「航空本部」ニ改ム
「電波本部」ヲ「電波本部」ニ改ム
「施設本部」ヲ「施設本部」ニ改ム

同表水路部ノ部中

海軍公報(部内限) 第四七二六號

昭和十九年六月二十九日

八九九

課長	特務士官(課長直屬ノ者)
----	--------------

課長	特務士官(課長直屬ノ者)
----	--------------

所長	幹事、教官
----	-------

水路部長指 定ノ高等官	下士官、准士官、兵
----------------	-----------

同表鎮守府ノ部中「准士官、下士官」ヲ「准士官、下士官、兵」ニ改ム

同表經理部ノ部中

經理部長	課長
------	----

課長	部員、特務士官
----	---------

經理部長	課長、支部長
------	--------

部長、支部長	部員、特務士官
--------	---------

同表海兵團ノ部記事欄中第一項ノ前ニ左ノ如ク加フ
團長ハ副官ヲ調製官ニ指定シ副官附主計兵曹長ノ考課表ヲ調製セシムルコトヲ得

同表聯合航空隊ノ部中「各科特務中少尉」ヲ「特務士官」ニ改ム
同表燃料廠ノ部中「下士官」ヲ「下士官、兵」ニ改ム

0618

別表第二號海軍文官考課表調製區分表中

「艦政本部
航空本部
施設本部」

「艦政本部
航空本部
電波本部
施設本部」ニ改ム

別表第五號別紙中

再	役	望	否
		望	
		熟	

ヲ

再	役	望	否	及	許	否
					可	
					許	

ニ改ム

官房経機密第八七六號

海軍戦時特例給與規則中左ノ通改正ス

昭和十九年六月二十七日

海 軍 大 臣

第二條第一項中「左ノ區分」ヲ「第一表」ニ改メ第一號乃至第三號ヲ削ル

第十四條ヲ第十九條トス

第十四條 支那ニ在ル部隊及其ノ他ノ各部ニ勤務スル軍人軍屬

ニハ第一表ノ増俸ノ五割ニ相當スル額ヲ臨時手當トシテ支給ス

又前項ノ手當ノ支給區分ハ第一表ノ増俸支給ノ例ニ依ル

第十五條 支那沿岸ニ派遣セラレタル艦船乗員ニハ該艦船支那

沿岸ニ在ル期間其ノ受タベキ戦時増俸及航海加俸（航海増給）

ノ五割ニ相當スル額ヲ臨時手當トシテ支給ス
前項ノ手當ハ支那沿岸ニ到着ノ日ヨリ其ノ沿岸ヲ出航ノ日迄
之ヲ支給ス

第十六條 支那ニ在ル部隊及其ノ他ノ各部ニ勤務スル豫備員候

補者ニハ第二表ノ二ニ依リ臨時手當ヲ支給ス

前項ノ手當ハ勤務廳ニ到着ノ日ヨリ退廳ノ日又ハ給與停止ノ

前日迄之ヲ支給ス

第十七條 支那ニ在ル部隊及其ノ他ノ各部ニ勤務スル者ニシテ

在外海軍部隊艦船臨時給與令第四條ノ特別手當ノ支給ヲ受ク

ルモノニハ特別手當ノ二十割ニ相當スル額ヲ臨時手當トシテ

支給ス

前項ノ手當ノ支給區分ハ特別手當支給ノ例ニ依ル

第十八條 前條ノ規定ニ相當スル者ニハ其ノ間臨時家族手當ノ

六十割ニ相當スル額ヲ臨時手當トシテ支給ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ手當ニ付之ヲ準用ス

附 則

本令ハ昭和十九年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

本令適用ノ際現ニ千島諸島ニ在ル部隊及其ノ他ノ各部ニ勤務ス

ル軍人軍屬ノ本令ニ依リ受クベキ増俸ノ額從前ノ規定ニ依リ支

給セラレタル増俸、在勤加俸及僻地在勤手當ノ合計額ヨリ少キ

トキハ仍從前ノ規定ニ依ル増俸、在勤加俸及僻地在勤手當ノ合

計額ヲ増俸トシテ支給ス

（參照）海軍機密會計法規類集一一六頁

0619

(別表)

豫備生徒		豫備學生	豫備學生	豫備學生
豫備生	徒	學	生	生
海軍豫備任用臨時特例ニ依リ採用ノ者		其ノ他ノ者		
三三五	四五〇	六七五	一一二五	一四二五

官房經機密第八七七號

昭和十七年官房機密第二五二四號中左ノ通改正ス

昭和十九年六月二十七日

海軍大臣

「在干島諸島、小笠原諸島、支那及海軍戰時特例給與規則第三條(佛領印度支那ヲ含ム)」ヲ「海軍戰時特例給與規則第一條ノ規定」ニ改ム

別表ヲ別表ノ如ク改ム

附則

本令ハ昭和十九年四月二日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

(參照) 海軍機密會計法規類集一三〇ノ三〇頁

(別表)

海軍公報(部内限)第四七二六號

昭和十九年六月二十九日

九〇一

雇員備人航海増給表

職	地	給
地	支	額
給料ノ十分ノ十但シ月額六十五圓ニ滿タザルモノハ十分ノ十六ヲ超ニザル範圍内ニ於テ六十五圓迄ヲ支給スルコトヲ得		

官房經第五九四號

昭和十七年官房第二四四二號中左ノ通改正ス

昭和十九年六月二十七日

海軍大臣

第一表ヲ左ノ如ク改ム

第一表

戰地	給與規則第一條(條ニ掲グル地)	給料ノ二十割	同二十三割	同十七割
		給料ノ二十割	同二十三割	同十七割
備	増給ハ標準額ノ豫算ヲ以テ勤務ノ優劣ニ應ジ最高最低ノ範圍内ニ於テ支給スルモノトス但シ最高及最低ノ増給ハ勤務總ニ勤務ノ日又ハ到着ノ日ヨリ該職退職ノ日迄ノ期間之ヲ支給ス	標	準	最
考		最	高	最
		低		低

附則

本令ハ昭和十九年四月二日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

(參照) 海軍機密會計法規類集一五二頁

0620

官房備第一三三號

海軍軍需工業中央整備委員會規程別紙ノ通定ム

昭和十九年六月二十八日

海軍大臣

海軍軍需工業中央整備委員會規程

第一條 本委員會ハ海軍軍需工業ノ整備ニ關シ左ノ事項ヲ調査
審議スルモノトス

(一) 海軍軍需工業整備ノ方針ニ關スルコト
中央各廳ノ直接利用工場ニ關スル利用分野、利用率ノ決
定ニ關スルコト

(二) 海軍各廳直接利用工場ト其他海軍關係發社會社ノ利用工
場トノ利用分野、利用率等ノ調整ニ關スルコト

(三) 中央各廳利用工場ト地方各廳利用工場トノ利用分野、利
用率等ノ調整ニ關スルコト

(四) 其他軍需工業ノ整備ニ關シ必要ナルコト
第二條 本委員會ハ委員長、常任委員、臨時委員及幹事ヲ以テ
之ヲ組織ス

委員長、常任委員及幹事ハ左ノ職員ヲ以テ之ニ充ツ
委員長 海軍省兵備局長
常任委員 海軍省兵備局第二課長
同 軍需局第一課長
同 經理局第四課長

幹事

海軍艦政本部總務部第一課長
同 同 商船班長
同 會計部第二課長
同 航空本部總務部第二課長
同 施設本部總務部第二課長
海軍省兵備局第二課ノ局長一名
同 軍需局第一課ノ局長一名
同 經理局第四課ノ局長一名
海軍艦政本部總務部第一課ノ部長一名
同 同 商船班ノ部長一名
同 會計部第二課ノ部長一名
海軍航空本部總務部第二課ノ部長一名
同 施設本部總務部第二課ノ部長一名
臨時委員ハ海軍省、海軍艦政本部、海軍航空本部、海軍施設
本部等ノ職員(課長以下)ノ中ヨリ審査事項ニ應ジ其ノ都度
委員長之ヲ指定スルモノトス
第三條 本委員會ハ必要ノ都度之ヲ開催スルモノトス
第四條 委員長必要ト認ムルトキハ委員及臨時委員ノ中ヨリ當
該審査事項ニ關係アル者ヲ指定シ小委員會ヲ組織シ其ノ議決
ヲ以テ委員會ノ議決ニ代フルコトヲ得
右小委員會ノ議決事項ハ委員會ニ之ヲ報告スルモノトス
第五條 本委員會ノ庶務ハ海軍省兵備局第二課之ヲ擔任ス

0621

官房人機第一四一八號
詔開海軍航空隊天草分遣隊及橫須賀海軍航空隊大分分遣隊定員
中特務士官以下ハ所管ニ拘ラズ詔開海軍航空隊天草分遣隊ハ依
世保領守府在籍者、横須賀海軍航空隊大分分遣隊ハ吳領守府在
籍者ヲ以テ之ヲ補充スベシ

昭和十九年六月二十八日

海軍大臣

官房經第五九五號

昭和十七年官房第四六六八號會計規則等戰時特別ノ實施ニ關ス
ル件申左ノ通改正ス

昭和十九年六月二十八日

海軍大臣

第一號ヲ第三號トシ以下順次ニ號宛繰下ク

一 海軍會計規程第三十七條、海軍作業會計規程第十四條及海
軍工廠資金會計規程第六條ニ依リ毎月提出スベキ報告書類中
左ニ掲グルモノニ在リテハ毎年度七月、十月及一月並ニ翌年度
四月ノ各月十日迄ニ各前三月間ニ於ケル收入又ハ支出ヲ、一
般會計ニ付テハ翌年度五月又ハ六月十日迄ニ年度經過後ノ整
理期間ニ於ケル收入又ハ支出ヲ取纏メタルモノニ依リ之ヲ調
製シ提出スルコトヲ得

徵收報報告書 (各會計共)
支出濟額報告書 (各會計共)
艦隊經費前渡資金現況報告書 (臨時軍事費特別會計)

海軍公報(部内限)第四七二六號 昭和十九年六月二十九日

支拂元受金差引額報告書 (作業會計、海軍工廠
資金會計)

支 出 明 細 報 告 書 (作業會計)

小 切 手 振 出 濟 額 報 告 書 (作業會計、海軍工廠
資金會計)

二 支出官共ノ振出シタル小切手又ハ淺出金支拂通知書ノ所持
人ヨリ償還ノ請求アリタルトキハ左ニ掲グル書類ヲ所持入ヨ
リ徵シ調査ノ上償還スベキモノト認メタル場合ニ限リ會計規
則等戰時特別第四條ノ規定ニ依リ之ヲ支拂フ爲スコトヲ得

償還請求書

(イ) 原債權發生ノ原因ヲ證スル書類 (但シ償還請求書ニ因リ
期限經過事由ヲ記載シタル書類) 明瞭ナルモノヲ除ク

(ハ) 小切手又ハ淺出金支拂通知書但シ盜取セラレ又ハ紛失若
クハ滅失シタル等ノ場合ノ小切手ニ在リテハ除權判決ノ正
本

(ニ) 淺出金支拂通知書ニ對スル償還請求ニシテ該通知書記名
者以外ノ者ヨリ償還ノ請求アリタル場合ニ於テハ其ノ正當
權利者タルコトヲ證スルニ足ル書類

(ホ) 日本銀行ニ於テ支拂期限經過ノ爲淺入ニ組入濟ナルコト
ヲ證スルニ足ル書類

(ト) 其ノ他償還請求ニ付必要ト認ムル書類

第四號中「第十四條」ヲ「第二十條」ニ、第五號中「第十三條」
ヲ「第十九條」ニ改ム

第五號ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ

六 各廳契約擔任官必要アリト認メタルトキハ會計規則等戰時

特例第三十條第三項ニ依リ六月以内代金延納ノ契約ヲ締結スルコトヲ得

七 前號ノ契約ニ付テハ左ニ該當スル場合ニ限り延納代金ノ全部又ハ一部ニ對スル擔保ノ提供ヲ免除スルコトヲ得

(イ) 公共團體ニ賣拂フトキ
(ロ) 法人ニ賣拂フ場合ニ於テ其ノ法人ノ信用確實ニシテ延納金額ガ其ノ出資金額又ハ拂込資本金額ノ二分ノ一以下ナルトキ

(ハ) 個人ニ賣拂フ場合ニ於テ其ノ個人ノ信用確實ニシテ延納金額ガ其ノ資産額ノ二分ノ一以下ナルトキ

(參照) 海軍會計法規類集一卷 四〇ノ九頁

○ 通 牒

官房第四五五號

昭和十九年六月二十七日

海軍省 副官

各領守府副官
各警備府副官 殿

公報掲載事項制限ノ件照會

最近公報類ノ航空輸送量ハ航空郵便物ノ過半ヲ占メ他ノ緊急ナル公文書ノ輸送ニ影響スル所大ナルヲ以テ之方輕減ヲ要スルト物資節約ノ見地上海軍公報ニ於テハ使用活字ヲ改變スルト共ニ掲載事項ヲ必要最少限ニ制限シ且違號ノ海軍公報掲載、海軍艦

政本部其ノ他ノ部報ノ印刷發行取止メ等ノ措置ヲ講ゼラレタルニ付テハ貴府ニ於テモ首題ノ件ニ關シ可然取計相成度

經豫機密第三號ノ四四

昭和十九年六月二十八日

海軍省 經理局長

各 支 出 官 殿

諸報告書提出ニ關スル件通牒

自今左記諸報告書類ハ毎年度七月、十月及一月並ニ翌年度四月ニ於テ各前三月間ノ計數ヲ取纏メクルモノニ依リ之ヲ調製シ提出スルコトヲ得ル義ト了知相成度

記

種 類	提出期限
支拂高報告書	當該月末日
臨時軍事費節別支出濟額調	當該月十日
工廠資金支出明細報告書	當該月十日
工廠資金前受金報告書	當該月十日

經豫機密第三號ノ四五

昭和十九年六月二十八日

海軍省 經理局長

各 支 出 官 殿

臨時軍事費支出濟總額ニ關スル件通牒

昭和十九年六月二十八日官房經第五九五號ニ依リ支出濟額報告書ハ三箇月分ヲ取纏メ提出シ得ルコトニ定メラレ候處豫算運用上必要ニ付首題ノ件左記ニ依リ毎月分ヲ翌月十日迄ニ遲滞ナク提出相成度

記

昭和 年 月分臨時軍事費支出濟總額調

本月分支出濟額

前月迄ノ累計額

合 計

圓 圓 圓

艦本機密第一號ノ一〇四五七

昭和十九年六月二十七日

海軍艦政本部總務部長
海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿

(特)七耗九機銃彈藥包ニ關スル件通知

七耗九機銃彈藥包ニシテ格納筐表面及紙筐ニ(特)ノ印アルモノハ訓練用ニ使用シ且使用時ニハ藥莢「グリース」又ハ試製藥莢液狀「グリース」(機銃附屬品トシテ既配付)ヲ使用ノコトニ取計相成度

追テ前記「グリース」ヲ使用セザル時ハ藥莢輪切ヲナシ連續發射不能ノ場合ヲ生起スルコトアルニ付爲念

艦本機密第八一五六號

昭和十九年六月二十八日

海軍公報(部内限)第四七二六號

昭和十九年六月二十九日

九〇五

關係各廳長殿

海軍航空本部總務部長

機銃兵裝ニ關スル件照會

首題ノ件既ニ裝備方針定メラレ關係機体ハ夫々改修中ナル處所定機銃ノ生産遲延等ニ依リ裝備不可能ノ場合ハ應急的ニ左記ニ依リ實施ノコトニ取計ハレ度

記

- 一、天山ノ二式十三耗機銃裝備ニ對シテハ一式七耗九旋回機銃
- 二、陸攻及飛行艇ノ側方二十耗旋回機銃ニ對シテハ一式七耗九旋回機銃本裝備ニ伴ヒ機銃取付支基ハ轉用可能ナル如ク手配シアルモ若シ不可能ナル場合ハ製造會社ニ對シ應急處置方要ニ求相成度中央ヨリモ關係會社ニ連絡可致候

○ 雜 款

○ 從軍年加算ニ關スル件照會

今般内閣告示第十五號ヲ以テ昭和十九年二月一日以後小笠原島(南島島ヲ除ク)及其ノ港域ニ在リ戰鬪力構成ニ參加從軍シタル公務員ニ對シ恩給法第三十二條第一項ノ規定ニ依リ「職務乙」ヲ加算セラルルコトト相成候ニ付二月一日以降當隊ヨリノ轉勤者ニ對シ左記事項調査ノ上本人ノ履歷書(表)記入相成度

記

- 一 加算取得記事ハ本年二月一日以後ニ對スル分ヲ「職務乙」ト訂正ス

0624

二 右加算取得ニ依リ敍勳資格發生者ニ對シテハ速ニ調査其中ヲ要ス
(父島方面特別根據地隊)

○事務所設置
今般第二十一海軍航空廠内ニ佐世保鎮守府空輸管理事務所設置セラレタルニ付從來當隊氣付ニテ發送セラレアリシ支那方面並ニ南方行要空輸軍需品ハ凡テ同事務所氣付トセラレ度ニ道テ當隊ニ滞留中ノ貨物ハ同事務所ニ移管濟ニ有之候
(大村海軍航空隊)

○事務開始
第三三一設營隊ヲ六月十五日舞鶴海軍施設部内ニ設置シ事務ヲ開始セリ
第二十九號海防艦艇裝員事務所ヲ六月十七日神奈川縣横濱市鶴見區辨天町日本鋼管株式會社鶴見造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

伊號第三六八潜水艦艇裝員事務所ヲ六月二十日横須賀海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去
菲島方面海軍航空基地設立準備委員會事務所ハ六月一日之ヲ撤去セリ
(第三南遣艦隊)

○取消
五月二十五日附(部内限)號外辭令欄四頁上段八行目「古川泰治」ノ辭令ハ取消

○訂正
五月二十五日附(部内限)號外辭令欄五頁下段六行目ヨリ「藤本治」近藤勇治郎「辻秀男」ノ辭令文中「畏」ヲ「舞鶴」ニ訂正

○本日普通公報發行セズ

0625